

第3学年 道徳学習指導案

1 主題名

一人一人を大切にしたい楽しい学級 (学級の友達に明るい心を取り戻させるための、言葉のかけ方)
小学校中学年4- (4)

2 資料名

「なかよしポスト」 出典 学研

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

小学校中学年の段階において、学級が自分たちのものであるという自覚をもち、この期の特徴である明るさを前面に押し出した楽しい学級をみんなで協力し合ってつくっていくようにすることが必要である。

中学年の子どもたちは、特に、自分の所属する学級や友達関係を強く意識してくるようになるので、一人一人の子どもたちが、学級の中に自分の居場所があることを、感じられるようにしなければならない。このようなことを踏まえ、より楽しい学級を目指すには、自分と担任、友達とのかかわりを深めながら、互いに認め合い、励ましあうことができる子どもたちを育成することが大切である。自分さえ楽しければよいのではなく、自分がみんなのためにできることを考えて行動したり、みんなで一人一人の友達を支えたりすることができてこそ、楽しい学級だと言えることに気づかせたい。

(2) 児童の実態

本学級の子どもたちは、学級目標を達成することができるように、自分たちなりに考えて活動を進めている。学級の係活動では、昼休みに週2回「みんなで遊ぶ日」を設けたり、お互いに気持ちよくあいさつができるように「あいさつ運動」をしたりして、自分たちの学級を自分たちの工夫で楽しく明るくしようとする姿が見られる。しかし、みんなが仲良くなるために設けられた「みんなで遊ぶ日」なのに、「楽しくないから」と遊びから外れたり、「あいさつ運動」の呼びかけに応えなかったりするなど、係の友達の気持ちを考えずに行動する子どもが数名いる。また、休み時間に一人ぼっちでいる友達がいるのに、声をかけず自分たちだけで遊びに行ったり、グループ学習に参加できていない友達がいるのに放って進めたり…という場面も見かけることがある。これは、子どもたちの中に、自分だけでなく周りの友達のことも考えて行動しようとする態度が十分に育っていないからだと考える。

以上のような実態を踏まえて、まず、みんなにとって楽しいクラスにするには、一人一人の友達に目を向けることが大切であることに気づかせたい。そして、友達に対してどんな言葉をかけ、どんなことをしてあげればよいのかを一生懸命に考えて行動できるようにさせたい。このようにすることが、みんなが楽しいと言える、本当の楽しい学級づくりを目指すことにつながり、意義深いと考える。

(3) 資料について

本資料は、児童が身近に感じられる場面設定であり、自分の考えを素直に引き出しやすい資料である。よう子は、自分の学級が大好きであるが、授業中に間違えた答えを発表してしまい、みんなに笑われたことがきっかけでひどく落ち込んでしまう。学級の友達はそんなよう子の心に明るさを取り戻させるために、学級に設置している「なかよしポスト」にたくさんの「なかよしカード」を入れる。それを読んだよう子は明るさを取り戻し、自分のクラスをさらに好きになる。資料には、友達が書いた「なかよしカード」の内容が記してあるが、その内容は空白にして提示し、授業の中でそれぞれの児童に考えさせる。また、資料に出てくるものと同じ「なかよしポスト」と「なかよしカード」を準備しておき、実際に書いたカードをポストに入れられるようにする。そうすれば、児童自身が資料の中の友達となり、よう子への言葉を真剣に考えることができるであろう。このようにして、落ち込んだ友達の心に明るい心を取り戻すにはどうすればよいかを熱心に考えさせることで、ねらいにせまっていくことができると考える。

4 本時のねらい

みんなにとって居心地のよい楽しい学級にするために、一人一人の友達を大切にしたい言葉かけや行動をしようとする態度を育てる。

5 日時

平成18年9月20日(水) 5校時 3年教室において

6 準備

資料「なかよしポスト」(紙芝居)、挿絵、なかよしポスト、なかよしカード、道徳ノート

7 展開

		学習活動	教師の支援	時
導入	教える	<p>1 悲しい表情をしている友達を見つけたとき、自分だったらどうしているかを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしたの？とたずねる。 ・泣かないでとなくさめてあげる。 <p>→放ってはおけない、助けたい、という気持ち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちがみんな笑っている挿絵と、その中の一人が悲しい顔をしている挿絵を見せ、みんなが楽しいクラスとそうでないクラスとの違いを明確にとらえさせる。 ○ 何を、なぜ学ぶのかをわたしメッセージで話す。 一人でも悲しい思いをしている友達がいたら、みんなが楽しいクラスとは言えない。みんなが楽しいクラスにするためには、悲しんでいる友達を助けてあげられるようになってほしい。 	
		<p>めあて 友達の心を、明るくするには、どうしたらよいか考えよう。</p>		
展開前段	考えさせる	<p>2 資料「なかよしポスト」を読み、話し合う。</p> <p>(1) 間違った答えを発表してしまった洋子さんの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はずかしい。 ・もう発表なんかしたくない。 <p>(2) 帰りの会で、なかよしカードの発表を聞いている洋子さんの心の変化をとらえる。</p> <p>こわごわ聞いていた ⇒ 心はたちまち明るくなった 心の中でありがとうをいいながら、 前よりもこのクラスがすきになった。</p> <p>(3) 自分だったら、なかよしカードにどんなことを書くかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>洋子さんへのなかよしカードにはどんなことが書いてあったのでしょうか。自分が洋子さんと同じクラスの友達なら、カードに何と書きますか。</p> </div> <p>① なかよしカードに書く。</p> <p>② 全体で話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・算数の時間にわらってしまっでごめんね。 ・洋子さんはがんばって発表したのに、まちがいをわらったみんなのほうがおかしいよね。ほんとうにごめんなさい。 ・だれだってまちがえることはあるんだから、気にしないで。わたしもまちがった答えを発表したことあるよ。 ・勇気を出して手をあげて発表したんだからすごいよ。わたしはなかなか手をあげられないから、洋子さんのことすごいと思うよ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ なかよしポストのよさについて説明する。 →<u>クラスのみんなが明るい気持ちになれるためのポスト</u> 「ごめんね、ありがとう、いいところ、がんばったね」 ○ P43, L5～9 までを空欄にし、子どもたちが自分だったらどんなことを書くか考えることができるように発問をする。 ○ 白紙のなかよしカードをポストの中から出して見せ、自分で考えてカードを書くことに意欲をもたせる。 ○ 友達のことを一生懸命に考えてかけた言葉は、その人の心を明るくする<u>大きな力</u>があることに気づかせる。 	5
展開後段		<p>3 資料で問題となった状況に類似した他の問題状況を挙げ、その場合どうするかを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>元気のない友達の心を明るくするにはどうすればよいか、いろいろな場面を思い出して考えてみましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ いくつかの場面を例にあげ、自分だったらどのようにするかを考えさせる。その他にも、友達の心を明るくするために、声をかけたり何かしてあげたりできたことがないかを想起させる。 	25
		<p>4 教師の話聞いて、本時で学習した内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>一人一人の友達の心を明るくすることを考えて、言葉をかけたり行動したりすることが、みんなが楽しいクラスをつくるために大切なことなんだな。</p> </div>		35
終末		<p>5 学習でわかったことを道徳ノートに書き、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 能動的な聞き方で、児童の話聞く。 ○ 友達の考えを聞くことで、自分の考えを深めたり広げたりできるようにさせる。 	40